

## 教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 ( 片桐恭弘 )

### 1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など (平成 12-17 年度に限る)

例: (欧文の場合は、原文 alphabet で記入してください)

#全著者あるいは作者名 (自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所 (総頁数)、発表雑誌又は発表学会 (号・巻・pp・年月)、展覧会 (場所・期間) などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム (招待講演)・一般講演など (地方支部会・全国大会・国際会議) の別

註: 学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

#### #片桐恭弘

&多人数会話におけるあいづちの機能について

\$人工知能学会研究会資料 SIG-SLUD-A603, pp.39-44, 2007.

#### #片桐恭弘,

&感情のコミュニケーションを活性化するメディア環境へ向けて,

\$電子情報通信学会誌, Vol. 89, No.1, pp.2-6, 2006.

#### #Yasuhiro Katagiri, Mayumi Bono, Noriko Suzuki,

&Conversational inverse information for context-based retrieval of personal experiences,

\$New frontiers in Artificial Intelligence, LNAI4012, Berlin: Springer, pp. 365--376, 2006.

#伊藤禎宣, 岩澤昭一郎, 土川仁, 角康之, 間瀬健二, 片桐恭弘, 小暮潔, 萩田紀博,

&装着型体験記録装置による対話インタラクションの判別機能実装と評価,

\$ヒューマンインタフェース学会誌, Vol. 7, No. 1, pp.167-176, 2005.

#### #片桐恭弘, 片岡邦好(編),

&講座社会言語科学第 5 巻 社会・行動システム,

\$ひつじ書房, 2005.

#伊藤禎宣, 岩澤昭一郎, 土川仁, 角康之, 間瀬健二, 片桐恭弘, 小暮潔, 萩田紀博,

&装着型体験記録装置による対話インタラクションの判別機能実装と評価,

\$ヒューマンインタフェース学会誌, Vol. 7, No. 1, pp.167-176, 2005.

#Yasuhiro Katagiri,

&Interactional Alignment in Collaborative Problem Solving Dialogues,  
\$9th International Pragmatics Conference, 2005.

#Toru Takahashi, Christoph Bartneck, Yasuhiro Katagiri, Noriko Arai,

&TelMeA - Expressive avatars in asynchronous communications,  
\$International Journal of Human-Computer Studies, Vol. 62, No. 2, pp.193-209, 2005.

#N. H. Arai, T. Takahashi, Y. Katagiri,

&Designing the CSCL environment for bilingual deaf education,  
\$International Journal on Advanced Technology for Learning, Vol.2, No.1, pp. 21-28, 2005.

#坊農真弓, 片桐恭弘,

&対面コミュニケーションにおける相互行為的視点--ジェスチャー, 視線, 発話の協調,  
\$社会言語科学, Vol.7, No.2, pp.3-13, 2005.

2) 学会活動 (役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など (平成 12-17 年度に限る)  
例:

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間 (年月)

註: 専門分野によっては適宜変更 (例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

#日本認知科学会

&会長

\$2007 年 1 月—2008 年 12 月

#人工知能学会音声言語理解と対話処理研究会

&主査

\$2006 年 4 月—2008 年 3 月

#社会言語科学会

&副会長

\$2003 年 8 月—2006 年 7 月

#電子情報通信学会異文化コラボレーション研究会

&副委員長

\$2005年4月～2007年3月

#日本認知科学会

\$編集委員

#2003年8月～2006年7月

3) 研究費獲得状況(未来大学外からの財源)(科学研究費、財団助成金、委任経理金など  
(平成12-17年度に限る))

例:

#平成12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究(相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費(例:平成12年度:800千円、平成13年度:500千円)

#平成18-20年度

&科学研究費補助金基盤研究(B)

\$合意形成型の多人数インタラク션을対象とした会話構造抽出の研究

%代表者、研究課題参加者7名

¥研究経費(平成18年度:530千円、平成19年度:560千円)

4) その他(特許、内地研究(学内共同研究は除外)および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成12-17年度に限定しない。)

## 2 教育業績

1) 教育負担の実態(複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ)本項目は時間割に

含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。（平成 12-17 年度に限る）

例：

# 科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

& 実施期間（平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施 13 コマ、休講 2 コマ）

\$ 実働時間数（全て、実時間合計(推定)値でお願いします）、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください（例：実働 22.5 時間）

% 受講登録学生数（例：45 名）、平均的出席者数（例：38 名；初めは 40 名、終りは 25 名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

**#線形代数学 I(講義), 2 単位, 必修**

**&平成 18 年度前期, 15 コマ**

**\$実働 22.5 時間**

**%受講登録学生数 90 名, 平均出席者数 70 名, 単位認定者数 84 名**

**#AI プログラミング I(講義), 2 単位, 必修**

**&平成 18 年度前期, 15 コマ**

**\$実働 22.5 時間**

**%受講登録学生数 60 名, 平均出席者数 60 名, 単位認定者数 60 名**

**#線形代数学 II(講義), 2 単位, 必修**

**&平成 19 年度後期, 15 コマ**

**\$実働 22.5 時間**

**%受講登録学生数 90 名, 平均出席者数 70 名, 単位認定者数 73 名**

**#情報数学(講義), 2 単位, 必修**

**&平成 19 年度後期, 15 コマ**

**\$実働 22.5 時間**

**%受講登録学生数 90 名, 平均出席者数 70 名, 単位認定者数 76 名**

2) 成績評価方法（その方法を具体的に記載・学生（社会）が納得するような具体的説明。）

また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

線形代数学 I：中間試験の成績，期末試験の成績を中心として，さらに授業への出席態度を勘案して成績を評価した。

AI プログラミング I：毎回の授業の課題および期末時提出のレポートに基づいて成績を評価した。

線形代数学 II：中間試験の成績，期末試験の成績を中心として，さらに授業への出席態度を勘

案して成績を評価した。

情報数学：中間試験の成績，期末試験の成績を中心として，さらに授業への出席態度を勘案して成績を評価した。

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

線形代数学 I：基礎科目のため，基本を着実に身につけられるよう丁寧に授業を行うとともに，毎回課題を課し，問題を解くことを通じて理解を深めるよう努めた。

AI プログラミング I：学生の興味をもちそうな題材を選び，具体的なプログラミング課題を構成した。プログラミングの上級者にとってもチャレンジとなる側面を持つと同時に初級者でも達成可能な課題を設定するように努めた。毎回の授業では課題の中で生じる疑問に丁寧に答えて，自ら考えながらプログラミングを学ぶことが出来るよう努めた。

線形代数学 II：基礎科目のため，基本を着実に身につけられるよう丁寧に授業を行うとともに，毎回課題を課し，問題を解くことを通じて理解を深めるよう努めた。

情報数学：シラバスに盛り込まれた授業内容が多岐にわたるため，回路理論のさまざまな手法についてそれぞれの関係や守備範囲など全体の見通しが付けられるように留意して講義を行った。

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。)

### 3 大学の管理運営

各種委員会 (委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績 (具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など))、その他。(平成 12-17 年度に限る)

#### 4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（平成 12-17 年度に限る）